

第19回 文化・産業のまち部会 会議録

1 開催日 平成29年12月19日（火）

2 場所 和気町役場

3 出席状況 出席7名

部会長	森田 寿	出席	副部会長	水地 秀壽	出席
委員	森岡 繁信	出席	委員	今田 一成	出席
委員	三上 雄二	出席	委員	多賀 紀征	出席
委員	逸見 孝明	出席	委員	田原 裕之	欠席

4 事務局出席者

総務部協働推進課 1名

5 傍聴者 なし

6 議事内容

「教育」をテーマとして部会で協議しており、「教育の町和気」構想を掲げ、「和気町に住めば子どもの学力が向上する。」というテーマのもと、小中学校全体への英語特区導入、無料公営塾の設置、和気高校での「高校魅力化プロジェクト」などを柱とした取組を行っている和気町を視察したものの。

～視察結果は以下のとおり～

【和気町出席者】

- ・地方創生課：3名
- ・社会教育課：2名

○和気町における子育て支援の取組について（公営塾）

- ・町内の幼（4歳以上）・小・中学生を対象としており、参加割合は小・中学生とも40%を超えている。
- ・場所は旧中国銀行の跡地を活用しており、「英語」のみの無料公営塾を実施している。（インバウンド受け入れ対策という整理）
- ・頻度は週2回（水曜夜、土曜昼）で、講師は地域おこし協力隊、大学生、大学留学生、ALTなどである。
- ・学校での教材は一切使用せず、目的を英会話と英検対策に特化することで、民間の塾の理解を得ている。
- ・学校との教え方の違いなどの指摘があった場合は、「役場」が調整役として全面に出て、コミュニケーションを図ることで調整できている。

- ・地域おこし協力隊が中心となって取り組んでおり、企画・管理から運営までの役割を担っている。
- ・「地域おこし企業人」として(株)ベネッセコーポレーションから社員の派遣を受け（特別交付税措置有り）、ノウハウや知見を活かした事業の組み立てが行われている（教材の提供など）。
- ・運営費用は、地域おこし協力隊経費、地方創生加速化交付金、クラウドファンディング（60万円程度）などであり、町費の持ち出しはなし。
- ・課題としては、「無料」により、参加動機や意識の低い生徒がいることであり、教材費程度は有料とすべきかなど検討中とのこと。

○岡山県立和気閑谷高校魅力化事業について

- ・島根県海士町の取組を参考とし、2014年度から開始した（商業系の科を「キャリア探求科」という名称に改めた。）。
- ・「閑谷學」と称し、「町」をフィールドとして、課題解決能力などこれからの社会で生きていく力を身に付けるキャリア教育を推進している。
- ・これは、地域おこし協力隊のコーディネートで、学生が、商店街の活性化や産業振興といった地元の課題を探し、解決策を考えて住民に発表もする総合学習である。
- ・高校魅力化支援職員として、「地域おこし協力隊2名」と「地域おこし企業人1名」が常駐している（町が派遣。特別交付税措置有り）。
- ・県立高校であり、これまでは行政との壁があったが、そういう時代ではないと考えた。活動を通して生徒は問題を「自分事」として受け止めるようになり、地域への愛着や責任感が強まる。地元への定着や将来のUターンなど、地域の担い手育成につながる効果が期待できる。
- ・この取組は、今年度の経済産業省・文部科学省の第7回「キャリア教育推進連携表彰」の最優秀賞を受賞した。
- ・2020年度の文科省の学習指導要領？では、地域に愛着を持つようなキャリア教育が柱になると言われており、先取りの施策だと思っている。
- ・その他、高校の活性化と生徒間の切磋琢磨を図ることを目的として、平成30年度入試から県立高校で初めて、生徒を全国募集する。